

シリアの文化遺産と 現在の危機下における文化遺産保護活動

Syrian Cultural Properties and their Protection under the Current Conflict



シリア・アレッポ国立博物館館長
ユーセフ・カンジョウ博士

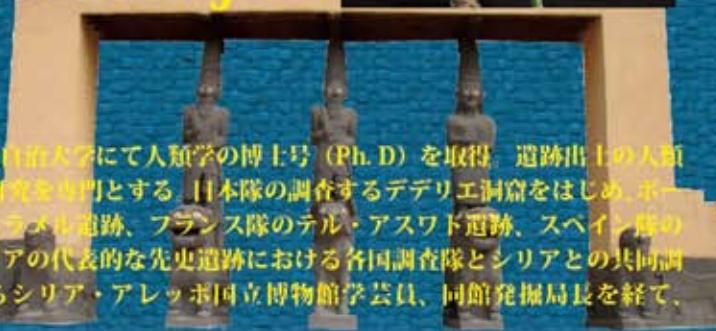
Director of Antiquity and Museum
of Aleppo, Syria

Dr. Youssef Kanjou



1971年生まれ

2002年にメキシコ国立自治大学にて人類学の博士号(Ph.D)を取得。遺跡出土の人類遺体のDNAや古人骨の研究を専門とする。日本隊の調査するデデリエ洞窟をはじめ、ボーランド隊によるテル・カラム遺跡、フランス隊のテル・アスワド遺跡、スペイン隊のハルーラ遺跡など、シリアの代表的な先史遺跡における各国調査隊とシリアとの共同調査を実施。2003年からシリア・アレッポ国立博物館学芸員、同館発掘局長を経て、2011年同館館長に就任。



2013年11月21日(木)

午後2時45分~4時15分

人間社会講義棟 201号教室

Thu. 21th Nov. 2:45-4:15 PM

定員 150名

英語（講演後に日本語による解説あり）

シリア・アラブ共和国では2011年1月に始まった武力衝突が激化し、いまや内戦状態になっています。たくさんの人々が犠牲になり、町や文化遺産が破壊されています。本特別講演会ではシリア・アレッポ国立博物館館長のユーセフ・カンジョウ博士をお招きし、シリアとその豊かな文化遺産、そして現在の危機的な状況下における文化遺産保護活動についてお話しいただきます。

Syrian conflict began in January 2011 and still continues. A large number of victims occurred and towns and cultural properties are severely damaged. Okayama Orient Museum invites Dr. Youssef Kanjou, the Director of Aleppo Museum, Syria to give a special lecture about Syria and its great cultural properties and their protection activities under the current conflict.

問い合わせ

人文学類 足立拓朗研究室

内線：5328

mppnb@staff.kanazawa-u.ac.jp